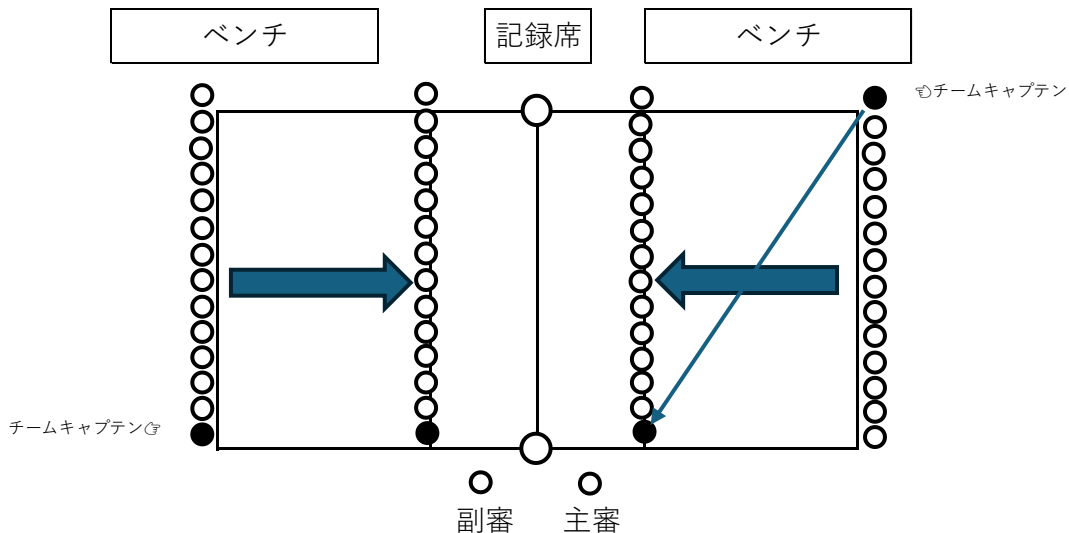


令和6年度 第22回 埼玉県バレーボール協会長杯争奪中学生バレーボール大会 審判上の注意事項

審判部長 三浦 岳彦

- 1 今大会は、2023年度(公財)日本バレーボール協会6人制競技規則ならびに令和5年度(公財)日本中体連における6人制ルールへの取り扱いに原則として則って行う。なお今大会では、チームは、監督1名・コーチ1名・マネージャー1名・選手18名とする。選手のベンチ入りは14名以内とし、13名以上の場合は必ず2名のリベロを登録すること。また、「試合毎にベンチ入りの選手の変更は可」とする。ただし、主将の試合毎の変更は認めない。
- 2 キャプテン・トスは、試合設定時刻がある場合はその11分前に行う。それよりも遅れた場合、または設定時刻のない場合は、前の試合の終了5分後に行う。
監督は記録用紙のチーム・メンバーを確認し、リベロ・プレーヤーの番号を所定の欄に記入した上でサインする。リベロ・プレーヤーの氏名は記録員が記入する。
トス終了後、すみやかにラインアップシートを提出する。
- 3 試合前後のあいさつについて
(前提) ・チームキャプテンを一番右に、エンドライン上に一列に並ぶ。
・主審の吹笛でその場で礼をしてアタックラインまで出る。その際、チームキャプテンは主・副審の目の前に来る。
①試合前：チームキャプテン以外はアタックライン上で止まり、礼をしてベンチに戻る。両チームキャプテンはお互いに礼をした後、主審・副審それぞれに礼をしてベンチに戻る。
②試合後：チームキャプテン以外はアタックライン上で止まり、礼をする。礼の後、ネットを挟んで相手チームと握手をしてもよい。両チームキャプテンはお互いに礼をした後、主審・副審それぞれに礼をして感謝の意を表し握手をしてベンチに戻る。



- 4 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。(相手チームに対してのガッツ・ポーズや判定に対する非難や不正な態度など)軽度の不法な行為については、チームに対して警告が与えられる。不法な行為に対する制裁は、その試合を通して累進的に取り扱われる。
- 5 試合中は、ベンチ・メンバーの服装等にも気をつけること。監督などの短パン、ランニングシャツは原則として認めない。また、ゲームに不必要な物の持ち込みも禁止する。また、マネージャーの服装はユニフォーム以外のものとする。

- 6 タイム・アウトは原則、監督のみ要求することができる。選手交代は、交代選手が競技中断中に、コートに入る準備をして選手交代ゾーンに入ることで、選手交代の要求となる。そうでない場合の交代は認められない。複数組の選手交代を要求する場合は、連続して選手交代ゾーンに出向くこと。
※タイム・アウトの要求に関しては、取扱が変更になっていますが、試合経験が浅いことから副審がまだ不慣れで気づかない場合が想定できます。そのような時には今まで通り、一声かけていただきますよう、お願い致します。
- 7 ユニフォーム等の着替えについては、アリーナ以外の観客の目に触れない所で行うこと。
- 8 リベロの交代方法は、中学生の大会では、交代するペアがサイド・ライン上で静止することなく交代してもよい。この際、交代する選手同士が手を合わせる必要はない。なお、選手交代ゾーンとリベロ・リプレースメントゾーンとを区別すること。
- 9 ゲーム中のワイピングはコート場の選手が行う。タオルを持っていないために、ワイピングに時間が必要となった場合は、遅延行為となる場合もある。タオルは複数枚用意しておく。
- 10 観客席以外のフロアで観戦している人からのタイム・アウト中やセット間での指導は認めない。また、保護者・応援者からの試合の妨げとなるような行為や審判団（生徒役員含む）への不適切な行為へ暴言等がないように、チームで責任をもって指導しておくこと。
- 11 男女各初日は、帯同審判員制で試合を行う。よってチームは、審判員を帯同するか、監督またはコーチが審判をすることになる。競技規則に出ている審判割り当てに従って審判をすること。主副については、お互いに相談して決める。勝ち上がりの結果、自分と同一市町村のチームの試合を審判することもあり得る。この場合、可能な範囲で副審になるようにする。